

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					210		徳定土地区画整理事業					都市構想部		区画整理課		
1 事業概要		中事業番号		1372											所属コード		333000	
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）						
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	11.3 11.b									お知らせ（まちづくり通信）を発行し事業状況を周知する。土地区画整理事業施行地区内の道路等の公共施設整備、建物移転、宅地整地及び保留地売却を行う。	中心市街地及び、国道49号へのアクセスと公共施設の整備改善を図り、無秩序に市街化が進む地区内を健全な都市基盤に整備する。						
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち																	

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
当地区は、道路の道幅が狭いことから緊急車両が通行できない。大雨の際には内水被害を受け、さらには開発等により宅地のスプロール化が進んでいる。		土地区画整理事業が進み、道路整備により市街地の形成が徐々に進んでいる。 また、本事業地区内の一級河川阿武隈川河川改修事業（施行者：国）は整備が完了している。		土地区画整理事業に伴う笹川大善寺線の暫定供用及び安積永盛駅前線の部分供用により、沿線の土地利用が図られるとともに、区画道路の整備を進めることで、更に安全、安心で快適な生活基盤が形成される。		土地区画整理事業の事業期間が長期にわたっていることから、権利者から移転先の宅地整地、区画道路の整備の早期実現など、早期の事業完了が望まれている。 また、都市計画道路の早期完成が望まれている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2022年度	最終指標 2025年度
対象指標	土地の権利者数	人		439		439		439								
活動指標①	道路整備延長（単年度）	m	920.0	864	371.1	361.1	1,010.0	416.3	330.0		1,620.0		970.0	860.0		
活動指標②	建物移転戸数（単年度）	戸	5	11	10	3	9	5	2		20		16	7		
活動指標③																
成果指標①	事業費ベースの進捗率	%	65.0	65.9	72.3	70.8	78.3	58.3	61.4		68.9		75.5	79.7	61.4	80
成果指標②	仮換地指定率	%	58.6	59.2	59.6	59.7	60.6	60.9	61.9		62.9		63.9	64.6	61.9	65
成果指標③	道路整備延長（累計）	m	7,897.0	7,496	7,475.8	7,857	8,485.8	8,273	8,815.8		10,435.8		11,405.8	12,265.8	8,815.8	12,266
単位コスト（総コストから算出）	事業費ベースの進捗率 1 %あたりのコスト	千円		163,461		131,061		166,461	186,339		186,339		186,339	186,339		
単位コスト（所要一般財源から算出）	事業費ベースの進捗率 1 %あたりのコスト	千円		79,635		87,796		76,616	21,587		5,181		5,887	9,252		
事業費		千円		632,416		610,976		344,656	286,611		1,371,500		1,180,000	738,600		
人件費		千円		37,777		31,225		38,204	38,857		38,857		38,857	38,857		
歳出計（総事業費）		千円		670,193		642,201		382,860	325,468		1,410,357		1,218,857	777,457		
国・県支出金		千円		105,600		81,200		89,175	65,000		172,500		289,500	137,500		
市債		千円		195,900		33,600		100,400	84,700		155,250		260,550	208,600		
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		42,000		73,000		13,449	0		0		0	0		
その他		千円		189		24,200		3,619	136,911		1,043,750		629,950	392,500		
一般財源等		千円		326,504		430,201		176,217	38,857		38,857		38,857	38,857		
歳入計		千円		670,193		642,201		382,860	325,468		1,410,357		1,218,857	777,457		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続		継続						

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
優先的に整備していた都市計画道路安積永盛駅前線が令和6年4月に供用し、周辺の区画道路の整備を実施した。 建物移転補償については、権利者との交渉に時間を要したため、計画値と比較して減少した。		事業計画の変更により総事業費を3,452百万円増額したことで、道路整備や建物移転補償等を実施したが、事業費ベースの進捗率は低下した。しかし、変更後の総事業費を基準とした前年度からの進捗率は2.3%増加であった。		【事業費】 前年度と比較し道路整備延長、建物移転戸数は増加したが、前年度までに大規模な施設整備を実施したため、事業費は減少した。	
				【人件費】 権利者交渉や各事業者間の調整等に相応の時間を要したため、人件費は増加した。	

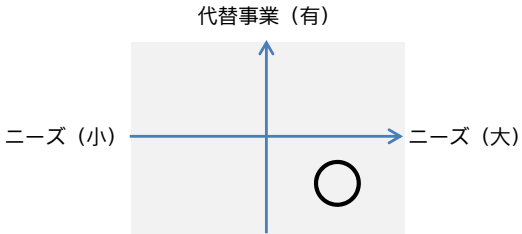
3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		4		
4 活動指標（活動達成度）		3		
5 成果指標（目的達成度）		4		

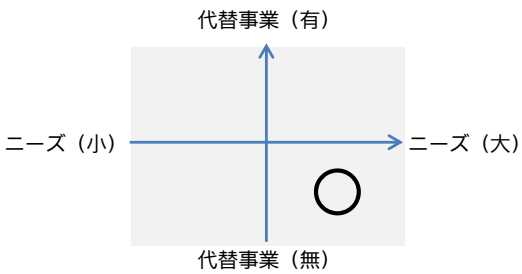
4 二次評価

(1) 事業手法評価				
1 規模・方法の妥当性		4		
2 公平性		4		
3 効率性		3		
4 活動指標（活動達成度）		2		
5 成果指標（目的達成度）		4		

(2) 事業継続性評価



(2) 事業継続性評価



継続	一次評価コメント
周辺地区とのアクセスを円滑にするため、幹線道路である笹川大善寺線と徳定行合橋線を繋ぐ安積永盛駅前線の整備を優先的に進めてきた結果、令和6年4月に開通することができた。 また、河川管理者にて実施している準用河川徳定川の河川改修工事も進んでいることから、引続き区画道路整備や建物移転補償等を継続して実施し、健全な市街地の形成のため事業進捗を図る。	

継続	二次評価コメント
令和 6 年度においては道路整備延長は416.3m、建物移転戸数は5戸で、事業費ベースの進捗率は58.3%を達成し、前年度比で2.3%の進捗率向上が確認できた。また、人件費や材料費の高騰という課題に対しては、事業計画の変更によって対応している。課題として、権利者交渉や関係者間の調整に時間を要していることが挙げられるが、これに対して適切な調整を実施し、進捗を維持しているものと認められる。 安全で快適な市街地形成を目指すため、今後においても継続して事業を実施する。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
				○	

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
	○	○

(参考) 令和 6 年度カイゼンのための行動計画